



新春号



酪農家と森永酪農販売を結ぶ情報誌

ファーマーズ
アイ



Farmers' Eyes

モリちゃん

2016 冬 vol.310



New Year

特集

2016年ファーマーズアイ新年号 新春対談

J1タケダファームの
これまでの歩みと今後の展望



新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

お陰様で弊社は今年創業から10年を経過し、11年目を迎えることとなりました。これまでお寄せいただきましたご厚情に対し、心から御礼申し上げますとともに、本年も倍旧のお引き立てを賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

昨年はTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)の「大筋合意」が為され、酪農乳業界はいよいよ本格的な変化の波に晒されることとなりました。取りあえず大きな変化は避けることが出来ましたが、チーズ・ホエイなどの乳製品が、年数をかけて最終的には関税が撤廃されることが明らかになるなど、その影響についてはまだ不透明です。

この状況にあって、酪農業界は今後生じることが予想される様々な課題を乗り越えてゆく準備をして行かなければなりません。現状経営の検証や新たな技術を活用しての経営効率の改善や拡大、時代に合わせた経営方針の見直しなど、検討や取り組みが必要な課題は山積していると思われれます。

酪農経営は複雑なシステムです。弊社営業担当は「酪農システム・エンジニア」として、これら酪農産業の様々な課題に取組み、今年も皆様の「お役に立つ」ことを目指して行く所存です。微力ではありますが、社員一同誠心誠意努力して参りますので、引き続き変わらぬご愛顧とご指導、叱咤激励を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

2016年元旦

代表取締役専務 百木 薫

- 02 **特集**
2016年ファーマーズアイ
新年号 新春対談
**J1タケダファームの
これまでの歩みと
今後の展望**
- 09 **森永デーリシシリーズ
ユーザー紹介**
 - 丹治智寛牧場
 - 高橋東太牧場
 - 豊永牧場
 - 横山英樹牧場
 - 高瀬敏牧場
- 17 **Farmers' Eyes REPORT**
 - 宮城県南ジブプロセミナー
「乳牛の暑熱ストレス」
 - 第14回全日本ホルスタイン共進会
北海道大会
- 19 公益財団法人森永酪農振興協会主催
**平成27年度
経営発表大会**
- 24 **めざせ未来の酪農家**
鹿児島県立鹿屋農業高校
- 27 **こんな牧場をつくりたい**
北海道標津郡中標津町(株)優成
- 28 **ファーマーズ工房**
株式会社箸荷牧場「wacca」
- 29 **M'S Kitchenレシピ**
「サバとクリームソースのショートパスタ」
M'S Kitchen開催レポート
- 31 おかげさまで創業10周年
支店長からのご挨拶
- 33 **ミック短信**
- 34 **Farmers Hint**
自作のカーフハッチにより
換気能力とコストの低減を実現

表紙の 写真

[北海道十勝] 加藤牧場

- 長男 よしのぶ 慶喜くん[左]
- 長女 けいご みのりちゃん[右]
- 次男 やすと 慶吾くん[右から2番目]
- 三男 やすと 慶人くん[左から2番目]



今回表紙に登場して頂いたのは、北海道十勝にある加藤牧場の4兄(妹)弟です。長男慶喜君(10歳・小5)、長女みのりちゃん(9歳・小3)、次男慶吾君(7歳・小1)、三男慶人君(4歳・年中)。みなさん学校や野球で忙しいなか撮影に協力してもらいました。

New Year



特集

Special Feature

2016年ファーマーズアイ新年号 新春対談

J1タケダファームの これまでの歩みと 今後の展望

弊社は、おかげさまで創業10年を迎えることができました。

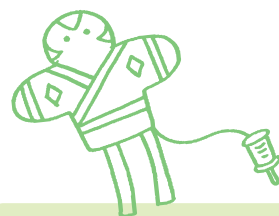
この節目となる創業10年にあたり、弊社の創業した年に新創刊した

ファーマーズアイ・モリちゃん(2006年冬号 vol.292)に

「安全安心・高品質の牛乳づくりを目指す、生乳中の体細胞対策」として、
巻頭企画に登場願いました奈良県の「J1タケダファーム」に再びご登場願ひ、

同牧場のこれまでの歩みや、今後の目標並びに

酪農・乳業に対するご意見をお聞きました。



有限会社 J1・タケダファーム

[左から3番目] [右から3番目]
竹田芳弘社長 **竹田吉克**専務
 [左から2番目] [右から2番目]
竹田周司常務 **藤原義浩**場長

森永酪農販売株式会社

[右から1番目] [左から1番目]
百木薫専務 **秋田英克**顧問

近畿の生乳生産概況について

百木 全国の生乳生産量は平成8年の850万トンピークに、右肩下がりとなっている酪農界です。加えて去年はTPPも大筋合意され、いよいよこれまでとは異なった環境下で新たな時代の酪農に向かって行かなければならないと思います。まずは、酪農界の現状をどのようにご認識されているか、竹田社長からお話をお聞かせ頂ければと思います。

社長 生乳生産減少の一番の原因は酪農家戸数の減少だと思います。酪農家の仲間がどんどん廃業している現状は、酪農生産者の一人としてとても寂しく思います。関西では間もなく500戸を割り込むような現状で、近畿生乳販連が設立された平成13年は約27万トンあった生乳生産量が現在では17万トン弱となっています。関西の消費量は60万トン強から50万トン強まで減少しています。従って、関西では需要量の3分の1しか生産できていません。奈良県は関西で3番目の2万5千トンですが、その中で当牧場は約3割の約8千トンを生産しています。

TPPの影響について

百木 最近の大きなトピックとして、大筋合意されたTPPが話題ですが、どの様に受け止められたのでしょうか？

社長 特に北海道や若手の酪農家に対して、厳しさへの警鐘を鳴らしていると思います。また、中高年世代で必死に経営されている酪農家にはボディブローのように効いてくると思います。

乳製品の合意内容は、当初の想像に比べたら、それほど大

きな影響を与えないのではないか、という印象を持っています。しかし、牛肉は発効後16年目に9%への関税減少となりますので、安い牛肉がどんどん輸入されてきた場合、乳製品よりも牛肉の方で酪農経営に影響を与える事態になるのではと思っています。

秋田 乳製品についてはギリギリのところ踏みとどまったという印象ですが、安い乳製品が海外から輸入されるというムードの強調から酪農家の「日本の酪農はもう駄目だ」という、いわば風評被害的なことも懸念されます。

社長 TPPについて合意されたからには受け入れざるを得ないと考えますが、国には我々生産者を支えるために、どれだけ実効性のある対策を講じていただけるか。これが全国の酪農家にとって一番高い関心事だと思います。北海道に偏ることがないように、我々のような都市近郊酪農がこれからも頑張っているような対策を期待しています。生産者の気持ちをどれだけ蘇らせることができるかというところではないかと思っています。

専務 最近、奈良県でも農地がソーラーパネル発電所に様変わりしているところが多く見られます。このような農地利用ではなく畜産農家と耕種農家をもっと連携出来る仕組み作りなど、一次産業の一体化を地域全体で取組む耕畜連携システムなどを国や県に要望できればと思います。

常務 時代の趨勢のほかにTPPが更にきっかけになるかもしれないませんが、畜産農家が減少しています。国は専業で規模拡大の意志がある農家には手厚く支援して行くと言っていますが、特に20代前半の専業農業者のヤル気が出るような政策をして頂けるとありがたいです。

ほかには行政の縦割りも改善して欲しいです。例えば土地



◎J1タケダファームの歩み

- 昭和43年 奈良県大和高田市東中で酪農経営継承
- 昭和50年 奈良県御所市樋野へ経営移転(御所牧場)
- 昭和63年 北海道上川郡愛別町で経営拡大(愛別牧場)
- 平成10年 (有)竹田牧場設立
- 平成12年 (有)J1タケダファームに社名変更
- 平成13年 奈良県山添村北野で経営拡大(山添牧場)
- 平成22年 奈良県広陵町に肉匠たけ田オープン

造成をした場合、環境アセスメントなど農業とは別の法律が絡んだりして、なかなか思うようにいかないのが現状です。

社長 来年度予算で、農林水産省は2兆3000億という減額した金額を示しました。今後はTPPで輸入牛肉の関税だけでも800~900億円の特定関税財源が無くなって行くのですから、畜産政策に使える財源は更に少なくなります。ということは一般財源に頼らざるを得ません。稲作農家に対する政策意見は多いのですが、酪農家への具体的な政策意見は少ないと感じています。

現在、不足払い法では特定乳製品に185万トンに対してKg当たり12円、年間220億円を支出しています。私としては、出荷乳量に対して直接的で単純な補助金、例えば生乳Kg当たり10円の補助金を出すとして、全国の生乳生産量が730万トンだとしたら730億円の政策など、本当に我々酪農家がやる気を引き起こす、実効ある対策で酪農経営を支えて欲しいと農林水産省の担当官に要望しています。

J1タケダファーム、御所市と愛別町、山添村に 牧場建設してきた歩み

百木 ここでJ1タケダファームさんの歴史を振り返って頂きながら、何が課題であったのかを伺いたいと思います。

社長 私は昭和21年生まれですが、私が小学生の時、我が家は10頭位の手搾りをしていました。昭和42年に地元の普通高校を卒業後、大学受験に失敗してしまい、色々自分の進むべき道に悩んでいましたが、当時、巨人軍の長嶋選手の年収が1,500万円という話を耳にして、それなら自分は酪農で同じ収入を得ようと決意しました。酪農畜産のことは全

く分からなかったもので、千葉県の日清製粉・中央研究所畜産部で1年間の研修を受けさせてもらいました。

研修後は奈良に戻り、昭和43年に父から酪農経営を継承して60頭規模に拡大し、日量1トン強の生産になりました。当時では近畿の中でも比較的大きい牧場でした。

秋田 奈良県御所市に移転したのはいつですか。

社長 昭和50年です。御所牧場は120頭からスタートしました。その後常務が経営参加してくれた時には、ピーク時で200頭飼養の日量5.5トン位まで生産を伸ばしました。

秋田 北海道上川郡愛別町での牧場立上げはいつ頃ですか。

社長 平成元年に愛別牧場を立ち上げました。専務が旭川の大学を卒業してすぐに愛別牧場に従事しました。飼養頭数170頭、日量3トン弱の生産量でした。

百木 では、この山添牧場はいつ頃からイメージされていたのですか？

社長 愛別町で牧場を立ち上げた平成元年頃です。愛別町農協の組合長室で、関係者と500頭規模の牛舎建設構想を相談している時期に、お世話になった森永乳業の酪農担当の方から、ほとんど新規参入になる北海道での酪農経営の難しさについての助言を頂きました。それがきっかけで山添牧場の立ち上げに繋がりました。

秋田 平成13年5月、盛大に開催された山添牧場の開場式に出席させていただいたことがつい先日のように思い出されます。牧場開場から早や15年が経ちましたが、ご苦労された事などをお聞かせ頂ければと思います。

社長 構想当初は奈良県御杖村にある畜産試験場の隣接地などの候補があり、山添村は3番目の候補地でした。この土地は将来的に産廃処理場として考えられていたのです



が、元々酪農場5戸と養鶏場1戸が経営していた土地でしたので、村から酪農場の誘致という形で牧場建設となりました。

周辺住民への理解を得るために

秋田 山添牧場を建設する時に一番ネックとなったことは何でしたか。

社長 地元住民と公害協定の同意が必要で、最終的にはかなり厳しい公害協定書を締結しました。今でも3カ月に1回は地元住民の方々が場内の確認に来場されます。牧場の下流域で春と秋に水質検査をし、その結果を役場へ報告して、地元の役員会に報告をする事を開場以来続けています。畜産団地ではある程度の優遇があるそうですが、この山添牧場の土地では公害協定を遵守することが重要となります。そのための排水処理等に多額の管理費が発生しています。

百木 御所牧場から山添牧場建設の時に飛躍的に頭数が増加していますか。

社長 山添牧場の立ち上げ時は、愛別牧場から120頭、御所牧場から150頭の搾乳牛と、農協からの借り入れで330頭を導入し、合計600頭からスタートしました。現在の搾乳頭数は900頭なので、2/3の搾乳頭数から始まったこととなります。

BSE、堆肥処理、乳房炎の課題を乗り越えて

百木 山添牧場の開場からの15年間に、印象に残る出来事はありましたか？

社長 一番衝撃的だったのは、開場して間もない平成13年9月に、千葉県で我が国最初のBSEが発生したというニュースでした。TVで何回も流れた英国のBSE罹患の乳牛を見て、強烈なパンチを食らった気がしました。

われわれ酪農家にとって、伝染病の恐ろしさをひしひしと感じましたから、牧場での防疫体制には特に注意を払っています。その後、宮崎で口蹄疫も発生しましたが、やはりBSEが強烈でした。

専務 私としては平成22年に、200頭くらいの頭数減少を余儀なくされたことです。それまでは、戻し堆肥用の水分調整用にオガクズを大量にしかも簡単に確保できていましたが、その時は急に入手できなくなってしまい、堆肥処理に支障をきたしました。フリーバーンの牛床がドロドロの沼みたいな状態になり、乳房炎が多発して散々な状況になりました。急なことで対応が追い付かず、「これは、一旦頭数を減らさないと大変なことになる。このままでは牧場が全滅するかもしれない」と常務や場長と一緒に悩みながらも、頭数を200頭程度減らす決断をしました。

秋田 堆肥の問題から乳房炎が発生したということですか。

専務 乳房炎の発生もありましたが、一番は堆肥処理の問題です。これが解決するまで頭数を減らさざるを得なかったということです。

堆肥処理を円滑にするため、新規にマニュアルスプレッダーを購入し、WCSを購入する条件で堆肥散布の交渉をしました。散布を始めてから徐々に周辺からの引き合いも強くなってきました。年を追うごとに堆肥の要望も増えてきて、去年は200ha強に散布しましたが、実際は約300haの堆肥散布面積を確保しています。



事務所・従業員寮(中)、乳頭洗浄機(右)



社長 我々は堆肥生産も酪農生産という意識です。

J1タケダファームは生乳で約9億円の売り上げですが、その約1割の9,000万円が堆肥処理にかかっています。単純に言うと1頭当たり年間10万円が堆肥処理にかかっているということになります。これは都市近郊の酪農家では規模の大小にかかわらず同じようにかかっていると思います。機械更新とか、堆肥処理にかかる費用を全て合わせるとそれ位はかかると思いますよ。

百木 今までの15年間で、一番の大きな課題は堆肥処理の問題であったということですね。その他に、改善したところはありますか。

常務 良質乳の生産が我々酪農家の使命の一つと考えていますので、乳房炎対策には特に力を入れて取り組んで来ました。その対策の一つとして病牛の治療牛舎を設け、早期発見・徹底治療に取り組んでいます。

その他に、パーラーに乳頭洗浄機を導入しました。これは、朝昼晩の3回搾乳すべてにおいて作業する人のレベルが一緒というわけにはなかなかいかないからです。乳頭洗浄機を導入してからは、平均して1時間160~170頭の搾乳になりました。乳頭洗浄を機械で行いますから、誰がやっても同じように洗浄できるので乳房炎自体が少なくなり、乳房炎で淘汰する牛がかなり減りました。加えて、農場全体で労働時間の短縮・効率化を図ることもできましたと考えます。

6次産業化への歩み 焼き肉店「肉匠たけ田」開店

秋田 話題は変わりますが、専務を中心に平成22年8月、「確かな食品を消費者に直接提供したい」「高級和牛を多くの

方々に手ごろな値段で提供したい」というモットーで6次化産業へ挑戦し、『肉匠たけ田』を開店(ファーマーズアイ平成23年冬号 vol.300にも紹介)されています。

開店からの5年間で振り返って、6次化産業を進めていく中で、専務も多くのご苦労もあったかと思いますが。

専務 私は現在、酪農生産現場を離れて精肉店と焼肉店の経営に専念しています。まず『肉匠たけ田』オープンの動機ですが、それは愛別時代の単純な思いからです。

当時は仔牛が安く肥育牛も安い時期でした。肥育した牛を売って損するのであれば、自分で販売して、お客さんに少しでも安く提供した方がまだ良かったことや、次の牧場拡大計画が様々な障害で頓挫していた時期でもあったので、新たな事業拡大策の一つとして『肉匠たけ田』のオープンに踏み出しました。

「肉匠たけ田」の課題は酪農とは違うものだった

専務 正直な話として、もうちょっと容易に経営が進むものだと思っていました。しかしながら、実際に経営して一番感じたのは「売る苦労」です。これは社長・常務でも理解できていないと思います。

口で言うのは簡単で「こんな風に売れば」「あんな風に売れば」と皆さんからアドバイスを貰い、さんざんシミュレーションしてオープンしましたがお客様を前にすると頭が真っ白になりました。最初に注文が来たときは伝票を書く手が震えたことを覚えています。

秋田 「売る苦労」というのはまさに6次化産業に取り組むうえでの最大の苦労なのだと思います。こういう言い方は失



肉匠たけ田の1階は精肉店を営業。



礼ですが、酪農家は極端な話「売る苦労」は余り無いと思います。値段は自分で決められないかもしれませんが、生乳はローリーで取りに来て毎日確実に売れるわけです。

専務 『肉匠たけ田』がオープンした翌年の平成23年4月に富山県を皮切りに各地で発生した「ユッケ生レバー食中毒事件」が一番の衝撃でした。当店も風評被害をこうむり売上低下や客離れが起き、その時の苦労は言葉にし難いものがあります。貯金をすべて使い果たし残高はゼロになっていました。

秋田 「売る苦労」に加えて、食品を扱う仕事の大変さと消費者心理に直面せざるを得ない大変な経験をされたということで、そのご苦労がいかに大変であったかと拝察するところです。

百木 6次化産業は脚光を浴びていく部分でもあると思いますので、様々な制度も利用しながら更に発展していけることを期待しています。

J1タケダグループのこれからの道 更なる事業拡大に向けて

百木 次に、将来に対する夢・構想のようなものをお聞かせいただければと思います。

専務 今後の目標は『肉匠たけ田』で召し上がっていただく牛肉を現在の肥育牛預託・買戻し方式からF1の雌と和牛の雌による一貫肥育をしたいと思っています。例えば150~200頭の小さな規模でも、新たに「たけ田」ブランドを作りたい夢があります。また、1年後を目途に奈良の都市部にも新規出店したいと考えています。行く行くは東京に出店するのも夢



の一つです。

J1も近畿管内で次の牧場建設による事業拡大を構想していますが、私もJ1グループの発展に貢献したいと思っています。

百木 専務から次の牧場事業の拡大についてお話がありました。その計画について話せる範囲で結構ですのでご紹介頂けますか。

社長 現時点で2つの牧場建設・拡大を計画しています。両牧場とも当該市町村からの理解はいただいております。その内の1つが先行することになります。事業地に面積的な制約もあるので、まずは今までのノウハウが使える酪農に特化して、経営を軌道に乗せることを考えて進めています。事業規模も拡大を考えていますので、多くの負債を背負わなければなりません。産子を哺育中に売却して、早く返済を行っていく方向性で考えています。私の性格的にも早く“身軽”になりたいというのもあり、当面は酪農部門に特化するというのが方針です。

また、2つ目の牧場は、奈良県の畜産団地構想を活用したいと考えています。この畜産団地が平成30年頃の造成計画で、乳用牛1,000頭の他に、専務の目標である肥育も経営の中に取り入れ、肥育牛500頭という計画です。全てET和子牛による肥育を実施したいと考えています。

常務 近畿の生乳生産は消費の3分の1しか生産できていないので、生産を少しでも増やして近畿内での生乳の地産地消に貢献・寄与したいと考えています。できるだけ早くJ1グループとして新しい事業を開始し、運営を軌道に乗せたいです。

社長 これらの事業を成功させていくためには牧場スタッフの問題が重要だと考えていますが、常務と場長の二人とも

力強い口調で「できます」と答えてくれたので、いくつかの事業を同時に進めようと決断しました。私は行政の方や金融機関へのご説明が役目だと思います。

秋田 まだまだやるんだ!ということですね。

百木 J1タケダファームさんのこれまでの取り組みや、今後の事業展開に対するお考え、更には現在の日本の酪農家の皆様が抱えておられる様々な課題や、業界に対する意見や考え方など、多方面から本当に貴重なお話を聞かせ頂くことができました。何よりも心強く感じたことは、TPPの大筋合意など時代が大きく変化していく中で、更なる事業拡大に向けた新たな一歩を既に踏み出されているということです。これには全国の酪農家の皆様も大きく勇気づけられたのではないかと感じました。

長時間にわたり貴重なご意見をお聞かせ頂き、重ねて御礼申し上げます。本日は誠にありがとうございました。



山添牧場全景



森永デーリィシリーズ ユーザー紹介

ユーザーの方々から経営理念やこだわり、将来の目標
森永デーリィシリーズの感想をお聞きました。



◎北海道猿払村 丹治智寛牧場

- 牛舎形態：対尻式タイストール
- 労働力：3名（家族）
- 年間生乳出荷量：約850トン
- 使用配合：森永デーリィ76
グラスアルファ
- 乳牛頭数：経産牛85頭
育成牛62頭

Q 地域概要

北海道の最北端である宗谷岬のある稚内市に隣接する漁業や酪農が盛んな宗谷郡猿払村で、放牧を中心とした酪農経営を営んでいます。「健康な牛作りには、栄養価の高い草を多く食べさせ、土壌のミネラルバランス整えることが重要」といいます。土壌分析は毎年1回行い、土壌中のミネラルバランスが保たれているか確認し、必要に応じて施肥を行っています。

Q 経営理念(方針・考え方)

現在のところ、頭数を拡大する予定はないそうです。乳量についても「牛が気持ち良く出してくれる分で良い」と考えています。乳量を追い求めるのではなく、事故やトラブルなく産次数を重ねて欲しいと考えて長命連産を目標としています。

Q 仕事のこだわりや工夫

放牧管理であるため、放牧可能な春から初秋は放牧草を中心に、晩秋から春先までの放牧が出来なくなる期間はサイレージや乾草が中心になり、給与粗飼料が変化します。そのため、牛の状態や牛群検定データ等を参考にして、配合飼料(森永デーリィシリーズ)の銘柄を変更して対応しています。育成牛についても飼養環境の改善に力を入れています。育成舎のベッドには、お腹を冷やさないようにするためにバイオベットを採用しています。1m程に掘り出したところへバーク、チップ、完熟堆肥、最後におが粉を投入しています。日常の管理は1週間に1回、おが粉を追加しています。ベッド表面はフカフカしており、牛も心地良さそうに寝ているのが印象的です。



Q 森永デーリィシリーズのご使用頂いての感想

森永デーリィシリーズを利用してからは、それまで日常給与していたビタミン剤や生菌剤について給与中止しても牛の健康面でのトラブルもないそうです。ビタミン類・ミネラル類がしっかり添加されており、牛がしっかり利用していることを実感しています。放牧体系を基本にしているので、気候等で牧草の品質等については毎年変化してしまいます。そのため自給飼料や放牧草の採食量について正直わからない部分もあるそうですが、森永デーリィシリーズを使用してからは、糞の状態も安定しており、未消化のとうもろこしや繊維等は出てくることが無くなったと感じています。

Q 将来の目標や夢を教えてください。

基本的には放牧を中心とした健康な乳牛の飼養管理を考えています。しかし牛群の中には、特に能力の高い牛もいます。このような牛については、せっかくある能力なので牛群検定データ等を参考に、その牛の持っているポテンシャルを引出してあげられるような管理をしていきたいと考えています。乳牛が能力を十分に発揮しながら、更に、高体型、高能力、トラブルフリーな牛群管理を目指していきたいと考えています。

[レポーター：北海道支店道北営業所 島田直樹]



◎宮城県登米市 高橋東太牧場

- 牛舎形態:対尻式タイストール
- 労働力:3名(家族)
- 年間生乳出荷量:約250トン
- 使用配合:森永デージー17
- 乳牛頭数:経産牛25頭
育成牛8頭



Q 地域概要

宮城県の酪農家戸数は2015年2月現在578戸、年間生乳生産量120千トンであり、宮城県北部は冬季においても積雪は少なく緑豊かな住みやすい土地で、稲作と酪農の兼業経営が多い地域です。

Q 経営理念(方針・考え方)

「丁寧」をモットーにした経営を目指しています。牛を健康に飼養することで、牛を長持ちさせたい気持ちがあふれ、機械も長く使用したいと思っています。メンテナンスをマメに行う事でトラブルなく農繁期を迎えています。牛にも機械にも愛着を持っている高橋牧場です。

Q 仕事のこだわりや工夫

高橋牧場はイタリアンを主体とした牧草生産を行っており、粗飼料自給率はほぼ100%です。嗜好性の良い牧草を収穫するために、特に力を入れているのは草地の管理や更新、収穫作業とのことです。このこだわりの牧草を牛に腹いっぱい食べてもらう為にも、牛舎内の整理整頓と配慮が行き渡った管理のほかに牛の健康が欠かせないと考えています。

日常の牛舎作業も早朝4時から始まります。農繁期のタイムスケジュールを基本に飼養管理しているためです。「頭数もそんなに多くないから、もっとゆっくり始めても良いけど農繁期はどうしても時間が早くなります。季節ごとに作業時間を変更するよりも、いつも同じ時間からの作業の方がよいと考えています。農閑期でも朝が早いと昼間できる仕事も増えますから」と笑って話をされました。

受精適期を逃さないためにも自ら人工授精を実施しています。授精師免許を経営者の東太さん、父親の東さんが有しており、東さんは近隣の酪農家への授精業務も行っていました。

Q 森永デージーシリーズのご使用頂いての感想

デージーシリーズのコンセプトの部分でも特に「地域ごとの炭水化物のバランス」、「ライブイースト添加によるルーメン環境改善」が、牛を健康に飼養する高橋牧場の目指すスタイルと合致しており共感いただいています。こだわりの牧草を健康な乳牛が腹いっぱい食べて、ゆったり、のんびり過ごしていることを実感しています。

Q 将来の目標や夢を教えてください。

これまでの経営方針である自給飼料に力を入れて更なる低コスト経営を目指しています。その為には、これまで以上に「牛を健康で長持ちさせるためにより配慮を行き届かせせた管理と、乳量以外の遺伝改良への取り組み強化」を行い、「繁殖管理をより重視し、分娩間隔420日以内を維持する」、「良い草を作る為の草地管理と機械を長持ちさせるメンテナンス体制を強化する」考えです。

これらを実行して、現状の搾乳頭数で最大限の利益を得ていく考えです。「これらが実現できれば、育成舎くらいは必要になるかもしれません。その時にはまた手作りで建てるかな」と高橋親子は笑顔で話してくれました。

[レポーター:東北支店涌谷事務所 藤橋大輔]



◎栃木県那須町 横山英樹牧場

- 牛舎形態:対尻式タイストール
- 労働力:2名(家族)
- 年間生乳出荷量:約270トン
- 使用配合:森永デリー75
- 乳牛頭数:経産牛35頭
育成牛20頭

Q 地域概要

栃木県那須郡那須町は栃木県の最北端に位置し、首都東京からは約170kmにあり、東京と仙台の中間に位置しています。那須連山と八溝の山並みに広がる町は、北西部に那須連山の主峰「茶臼岳」(1915m)がそびえており、今なお噴煙を吐き続けながら南斜面には1380年の歴史を持つ温泉があり、日光国立公園「那須温泉郷」として観光の名所となっています。山麓地帯は別荘地やテーマパークがあり、高原地帯には傾斜地を利用した酪農が続き、中央・東部地区には水田地帯が広がっています。

Q 経営理念(方針・考え方)

7年前まで家族が勤務している地元の運送会社で輸入乾草など飼料配送の仕事を行っており、配送先のひとつに横山牧場があったそうです。ご縁があり横山牧場の娘さんと結婚して酪農経営を引き継ぐことになりました。

酪農は全くの未経験のため、牛舎に入ってから数年間は義父・義母の仕事を覚えることで精いっぱいでしたが、4年程前に牧場経営全体を任されてからは自分なりの飼養管理・酪農経営をという試行錯誤を繰り返しながら現在に至り、「まだまだ道の途中といったところ」と仰います。

常時40頭の搾乳で出荷乳量を1日1,200kg(1日1頭当たり30kg)以上で安定させたいと思っていますが、その前提として「牛を健康に長生きさせたい」、「乳量だけを追わずに繁殖を優先していきたい(目標分娩間隔:14~15ヶ月)」と考えています。また、育成牛舎と乾乳牛舎を整備していき、自家育成を基本としながら年間に数頭でも育成牛の販売ができるくらいになりたいと考えているそうです。

Q 仕事のこだわりや工夫

現在の搾乳牛舎は築約30年ということもあり、牛たちにとって決して快適な住まいとは言えなかったそうです。4年前に繋留方法をスタンションからタイストールにし、穴が空いてしまった飼槽をステンレス製にし、ウォーターカップと給水管を交換するなど牛舎環境改善を行ってきました。改善により



採食量や飲水量の増加も感じましたが、一番効果があったと感じているのは寝起きで肢を打撲し、多発していた前蹄の血斑が大幅に改善したことだと感じています。

また、安全・安心な生乳を生産するために、搾乳時の衛生も意識しています。基本的な搾乳機器の管理の他に、牛床は乾燥するように心掛けています。また、牛が気持ち良く搾乳してもらえるようにと思い、プレディッピング後に温かいタオルで乳房を蒸してマッサージするようにしています。今年はバルクスクリーニング検査でオールAの評価に繋がっているようです。

Q 森永デリーシリーズのご使用頂いての感想

森永デリーシリーズを使用するようになり、最初感じたのは飼料全体、特に粗飼料の採食量向上を感じたそうです。使用前に比べ牛たちの体調が良くなっているため、採食スピードも全体的に早くなったと感じているそうです。ライブイーストによるものと言い切ることはできませんが、牛を健康で長持ちさせたいという考えに合っていると実感されています。また、以前使用していた配合飼料は微量ミネラルなどが十分に添加されていなかった事もあり、分娩前の食いつまりや分娩後のケトシスが散発していましたが、森永デリーシリーズの利用後は採食量が落ちることなく分娩を迎えるようになったそうです。ビタミン類・マクロミネラル・微量ミネラルや有機ミネラルの必要量が十分に添加されているということで安心感があると仰います。

Q 将来の目標や夢を教えてください。

栃木県那須地区は本州随一の生乳生産を誇る酪農王国で、若い後継者も多く、酪農技術向上や経営改善にとっても熱心に取り組んでいる地域です。酪農経験は7年ですが、これからも向上心を忘れずに酪農経営に取り組み、自分より若い後継者が困った時にふと気軽に立ち寄って相談してもらえる、兄のような存在の酪農家になりたいと抱負を語ってくれました。

[レポーター: 関東支店北関東支店 古屋光博]

◎徳島県上板町 高瀬敏牧場

- 牛舎形態:対尻式タイストール ●労働力:3名(家族2+従業員)
- 年間生乳出荷量:約550トン ●使用配合:森永デーリィ17
- 乳牛頭数:経産牛60頭 森永デーリィ16
- 育成牛40頭



Q 地域概要

徳島県上板町は、一級河川の吉野川河口から、12kmさかのぼった北岸にあります。上板町は北に阿讃山脈、南は吉野川に囲まれています。水が豊かで温暖な気候で、季節により様々な春夏秋冬の美しい景観を持つ自然豊かな町です。

Q 経営理念(方針・考え方)

「自分の体に無理をしない!」、「牛も人も健康に!」、「牛も大事にしつつ人生も楽しく!」これを高瀬牧場は実践する様に心がけています。乳牛を健康に管理する事は、結果として無駄をしない事につながる考えを持っています。また、乳牛を飼養しているから「あれができない、これができない」ではなく、乳牛がいるからこそ「こういう事ができる」という考え方をしていきたいと思っています。年間2~3回、酪農ヘルパーを積極的に利用して家族旅行に出かけています。

Q 仕事のこだわりや工夫

乳牛への環境面からのストレスを緩和する為に、カウコンフォートへの取り組みを重視しています。乳牛の休息時間を考えて適切な牛床サイズと寝起きしやすい環境を求めて、柔らかいウレタンマットの採用と牛床を常に乾燥させる事に特に気を付けています。

また、乳牛を清潔に保つためカウトレーナーの調整もマメに行っています。牛舎内の換気と暑熱ストレス軽減を考慮して、大型ファンを3頭に一台の割合で設置しています。

労働力低減に向けて、計画的に機械類の導入も行っています。2015年2月に自動給餌機を導入しました。この他にも2008年にはキャリーロボットも導入しており、飼料給与と搾乳など作業軽減のための導入には積極的です。

自動給餌機を導入した事によりデーリィシリーズ2種類(バルキータイプとペレット&フレックタイプ)を利用しながら多回給餌(1日6回給与)を行うことで、ルーメンの安定を実現出来ていると感じています。

Q 森永デーリィシリーズのご使用頂いての感想

デーリィシリーズは穀類依存の配合飼料ではなく、乳牛にやさしく扱いやすい飼料だと感じています。具体的には牛群検定のデータを基本に乳牛の体調や状態に合わせて給与量を調整するとき、高泌乳牛にも無理をさせていないところが扱いやすいと思っています。自動給餌機を導入した際にメニュー変更もありましたが、従来からデーリィシリーズを使用していたこともあり、メニュー変更による乳牛への負担も少なかったと感じています。

Q 将来の目標や夢を教えてください。

今後も「無理なく無駄なく」をモットーに、人も牛もストレスなく酪農経営を続けていけたら良いと考えています。現在、従業員は1名ですが今後は2名に増やして更にゆとりを持たせたいと考えています。

当面は、分娩間隔を400日以内にする事を目標に繁殖管理を強化し、牛群に無理をさせずに10,000kg牛群へ徐々に戻していきたいとの事です。また、乳質についても通年で体細胞数20万以下にしたいと意欲を見せています。

[レポーター:関西支店徳島営業所 浅野亮紘]



◎熊本県相良村 豊永牧場

- 牛舎形態：対頭式タイストール
- 労働力：2名(家族)
- 年間生乳出荷量：約400トン
- 使用配合：森永デリー17
- 乳牛頭数：経産牛41頭
育成牛15頭



Q 地域概要

熊本県南部に位置する人吉・球磨地区は、周囲を九州山脈に囲まれた盆地で、畜産・稲作・畑作など農業が盛んな自然豊かな地域です。酪農家は計118戸あり、生乳生産向上に日々励んでいます。球磨酪農農業協同組合に所属している豊永牧場は、経営者の健治さんで3代目になります。健治さんは2007年3月まで球磨酪農農業協同組合の職員として従事され、同年4月より豊永牧場へお婿さんとして酪農業へ転向、2014年度から経営者として牧場を切盛りしています。

Q 経営理念(方針・考え方)

豊永牧場が牧場経営で第一に考えていることは、「無駄を徹底的に無くす」ことです。現在、牧草地以外の主な牧場仕事は健治さんと奥様の2人でこなしているため、作業の省力化・時短をすることで少しでも生活にゆとりをもたらすように工夫を凝らしています。

Q 仕事のこだわりや工夫

イタリアンライグラス、デントコーンサイレージ、イネWCSを生産し、収穫時には発酵促進剤を添加して良質な粗飼料作りを心掛けています。また、飼槽での残飼を極力無くすために飼料の給与回数を多くすることを心掛けています。粗飼料と同様に配合飼料の給与回数も多く、サプリメントを含めて1日6回給与することで、急激なルーメン発酵を防ぐようにしています。また、乳房炎の治療については菌の特定を行って抗生物質を選択するようしており、検査コストが発生しても無駄な治療は行わないようにしています。これらの飼養管理以外にも、牛舎設備の更新も積極的に行っています。飼槽を従来のタイルから御影石に変えることで、掃除の時間が短縮され、飼料の残飼も少なくなりました。また、パイプラインを更新したことで搾乳時間も短くなりました。他にも、淘汰対象を繁殖不適や高体細胞数の牛のみにするなどし、無駄を無くして生産性を上げるために試行錯誤を続けています。

Q 森永デリーシリーズのご使用頂いての感想

3年前までバルキータイプの配合飼料を利用していたが、当時はサプリメントを含めると1日1頭当たり最大で16kgも給与していたことへの不安もあったそうです。

森永デリー17を利用して3年経過しますが、全体的に配合飼料の給与量が減少し、給与飼料を確実に食べさせることが出来るようになりました。粗飼料の採食量が増加し、特にコーンサイレージの給与量が以前より1日1頭あたり3kg増やせるようになりました。

デリー17を給与してから乳成分も安定し、ケトosisなどの疾病が減少しました。また乳量も着実に伸びており、年間1頭当たり平均8,500kgだったのが9,900kgまで増加してきました。その他に、育成用飼料として、森永育成20プラスを給与するようになってからは育成牛の体格や体高、全体的なフレームが大きくなったことが分娩後の乳量に好影響を与えていると仰います。

Q 将来の目標や夢を教えてください。

自給粗飼料を中心としたメニューで、乳量を年間1頭当たり平均10,000kg以上にすることです。そのために3年前から牛舎設備に併せて、牛床マットの入れ替えやファンの増設や配置換えなどを行い、カウコンフォートの向上にも取り組んでいます。今後も乾乳牛の管理改善を行うために乾乳専用牛舎の建築を検討しています。また、今以上に良質で安定的な粗飼料作りを目指し、乾物摂取量を増加させ、残飼を減少させるためにロールカッターの導入も検討しています。「酪農はきつい、汚い、危険の3Kと言われているが、自分は搾乳することが好きです。子供たちが自然に後を継いでくれるような牧場にしたい。そのためには、より省力化と効率化に取り組み、将来的に規模拡大をして豊永牧場が4代目、5代目と続いていけるよう改善を継続していきたい。」と夢に向かっての力強い言葉を頂きました。

[レポーター：九州支店球磨営業所 酒井翔平]



森永酪農販売(株)は「健康な乳牛づくり」と

「健康な乳牛づくり」のために「森永新育成体系飼料」



乳牛は、遺伝改良と育成によってしか変わりません。
 育成は酪農経営の最も基礎となる重要な部門です。
 森永新育成体系飼料は「健康な乳牛づくり」をサポートします。

新バイオティクス技術に基いた森永育成飼料

新バイオティクス哺乳期サプリメント 森永らくらくガード



規格 500g 5kg

- プロバイオティクスとして森永が開発したピフィズ菌 (M-602:飼料添加物承認) を使用。
- プロバイオティクスとして森永が開発した乳酸菌 (LAC-300:飼料添加物承認) を使用。
- プレバイオティクスとしてピフィズ菌の栄養源となるラクチュロース (ミルクオリゴ糖) を配合した。
- 母乳に含まれ抗菌作用を持つことで知られている糖蛋白質森永ラクトフェリンをプラスした。
- 早期の腸管細菌叢の安定に貢献するための新バイオティクス哺乳期サプリメントです。

新バイオティクス代用乳 森永わくわくミルク



- 国内の代用乳に多く使われている植物性蛋白質を除き、消化率の高い乳製品由来の蛋白質だけで設計し、植物蛋白質の消化性問題を徹底して取り除きました。
- 乳酸菌、ピフィズ菌、ラクチュロース (ミルクオリゴ糖)、森永ラクトフェリンなどの新バイオティクスを導入しました。
- ビタミン・ミネラルはNRC2001に準拠して設計、配合しました。
- 低脂肪、高蛋白代用乳で、乳用雌子牛、黒毛和種子牛、乳肉交雑種子牛などの多様な品種や異なる哺乳方法に対応できます。

CP	TDN	Ca	P
25%	110%	0.9%	0.6%

ルーメンの発達に貢献する人工乳 森永もりもりスターター



- ルーメンの発達のため、穀類はミール加工を出来るだけ少なくし、フレーク加工としました。
- 選別された特定のイーストを生きたままカプセル化して添加し、子牛の固形飼料摂取量の増加と体重の増加を促進し、安心して離乳できるよう設計しました。
- イーストカルチャーを添加し、ルーメン微生物の発育を促し、ルーメンの初期発達に貢献し、確実な離乳プログラムを提供します。
- 子牛の発育に必要なCaやPなどのマクロミネラルを適正に設計し、特に不足しがちな亜鉛を有機ミネラルで強化しました。

CP	TDN	Ca	P
20%	75%	0.8%	0.5%

丈夫な骨格・内臓の発達と乳器の発育に貢献する育成飼料 森永育成20プラス



- 性成熟前の過肥を防止し、乳腺組織の発達阻害を回避する育成プログラムを提供します。
- 育成雌牛の発育に必要なCaやPなどのマクロミネラルを適正に設計し、不足しがちなCu、Zn、Mnを有機ミネラルで強化しました。
- ビタミンの高濃度添加で、粗飼料が不安定な場合でもNRC2001の要求量を満たすように設計しました。
- 選別された特定のイーストを生きたままカプセル化して添加し、ルーメン発酵の安定を図り、丈夫な更新用雌牛を作る本格的な育成専用飼料です。
- 定量給与を可能にした、飼養管理しやすい育成飼料です。

CP	TDN	Ca	P
20%	70%	0.8%	0.4%



「健康な乳牛の飼養管理」をサポートします。

「健康な乳牛の飼養管理」のために

搾乳用配合飼料 **森永デーリィシリーズ**

TMR専用配合飼料 **森永TMシリーズ**

ワクワク！
ドキドキ！
ラクラク！
ニコニコ！



★ 搾乳用配合飼料「森永デーリィシリーズ」、TMR専用配合飼料「森永TMシリーズ」は乳牛の健康管理、連産性、生涯乳量を重視して配合設計しました。

★ 森永酪農販売(株)は乳牛の産次数の改善を提案します。



特長 1
地域ごとに適正な炭水化物のバランスを設計

国内酪農の粗飼料事情は地域毎に様々ですが、乳牛用配合飼料はあまり変わっていません。どの地域でもトウモロコシを主要な穀物原料とする高デンプン質・高エネルギー飼料が多い状況にあります。このことは乳量の伸張には貢献しても周産期病やアシドーシスの危険性を高めることも危惧されます。このような高デンプン質給与を避けるため、地域毎に、粗飼料との組み合わせを考慮して、給与飼料の炭水化物のバランスを適正に保つよう配合設計しました。

特長 2
ライブイーストの使用

酵母を直接添加することは、これまで不可能でした。酵母が牛の消化管に届くまでに死滅したからです。しかし、生きた酵母をルーメンに届けることが可能になりました。酵母は、ルーメン内で容易に分解される炭水化物を、優先的に利用し、急激な酸性化を抑制します。そのことは、ルーメンに居住する多くの種類の微生物全体に良い影響をもたらします。多くの試験データが、ルーメンの環境改善を示しています。

特長 3
ビタミンの設計

油性のビタミンであるビタミンA、D、Eは、良質な粗飼料の給与により大部分が補充されますが、粗飼料の品質等により、粗飼料からの供給が不安定になった場合でも、「NRC2001」および「日本飼養標準2006」の両方の要求量を充足できるように配合設計しています。

特長 4
マクロミネラルの設計

カルシウム・リン・カリ・マグネシウム・ナトリウム・塩素などの多量ミネラル(マクロミネラル)はNRC2001の要求量を基準に、飼料原料中の含量や粗飼料中の含量を勘案し、配合飼料への添加量を設計しています。

特長 5
微量ミネラルの設計

コバルト・銅・ヨウ素・マンガン・亜鉛・クロムなどの微量ミネラル(マイクロミネラル)は、NRC2001の要求量を基準に、飼料原料中の含量や粗飼料中の含量を勘案し、配合飼料への添加量を設計しています。マイクロ・ミネラルは、全ての生理代謝に密接に関係していますが、粗飼料中の存在は極めて不安定です。

特長 6
微量ミネラルの有機化

NRC2001の要求量を超える微量ミネラルである銅・亜鉛・マンガンは、吸収率の高い有機ミネラルの形で加えています。具体的には、NRC2001の要求量までを無機ミネラルで、NRC2001の要求量を超えるレベルを有機ミネラルで強化しています。



お客様とともに楽農をめざす
森永酪農販売株式会社

貴重な酪農講演会 宮城県南 ジンプロセミナー「乳牛の暑熱ストレス」



ジンプロ社 酪農担当営業
高尾佳伸講師

- 日時:2015年6月10日
- 開催場所:宮城県伊具郡丸森町
- 聴講者:宮城県南酪農家
- 参加者数:13名



2015年6月10日、弊社は宮城県丸森町でジンプロアニマルニュートリション(ジャパン)インクの高尾佳伸氏を講師に迎え、「乳牛の暑熱ストレス」をテーマに酪農セミナーを開催しました。

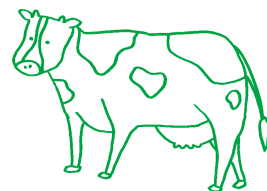
暑熱ストレスが家畜の飼育成績に及ぼす影響を中心にお話をされました。具体的な影響と対策としては、跛行牛の早期発見方法と対処法や牛舎の換気について、その他に乳牛の冷却方法や各種ミネラルの役割など多岐にわたり、内容の濃いものとなりました。

いち早く蹄病牛を見つけるためのロコモーションスコアを用いた観察のポイントについては、スコアの違いによる牛の歩き方が変化する模様や、フットシグナルなどについて映像を

交えてわかりやすく解説され、参加者の皆様は熱心に耳を傾けていました。

講演後の質疑応答では、牛舎のスプリンクラーの稼働頻度についての質問や、子牛の暑熱による影響についての質問が出され、真剣な意見交換の場となりました。

なお、今回のセミナーを開催するにあたっては、宮城県酪農農業協同組合、ジンプロ社の方々にお世話になりました。末筆ながら厚く御礼申し上げます。



乳牛のオリンピック 第14回全日本ホルスタイン共進会北海道大会



弊社ブースの様子。弊社ブースにお立ち寄りいただいた皆様、誠にありがとうございました。



山内誠 様
ホルスタイン種 未経産一般クラス「名誉賞」
「DH チャンス メイク ET」号



(株)松本牧場 様
ジャージー種 未経産クラス「名誉賞」
「クローバー クリストファー ロビン」号



「最高位賞」決定の瞬間
北海道 更別村 天野洋一氏出品
「レデイスマナー MB セレブリティ」号

2015年10月23日(金)~10月26日(月)の4日間、北海道勇払郡安平町早来新栄で第14回全日本ホルスタイン共進会(全共)が開催されました。

「乳牛のオリンピック」とも言われる大会であり、2010年に開催予定であった前回大会が宮崎県での口蹄疫発生や東日本大震災の影響により中止されたため、10年振りの開催となりました。

開催期間中は雨や雪の降る日もあり、天候には恵まれませんでした会場内は熱気に包まれていました。弊社の出展ブースにも大勢のお客様にお立ち寄りいただき、様々なお話を聞かせていただきました。また、酪農関連以外のブースはグルメやお土産物など多数あり、大変な賑わいでした。

10月24日と25日に行われた本審査では、全国から出品されたホルスタイン種とジャージー種が体型の美しさを競い合いました。

審査の結果、弊社のお客様である北海道北見市の山内誠様が「ホルスタイン種 未経産一般クラス「名誉賞」」を、北海道広尾郡大樹町の(株)松本牧場様が「ジャージー種 未経産クラス「名誉賞」」を獲得されました。誠にありがとうございます。今後の益々のご活躍をお祈りいたします。

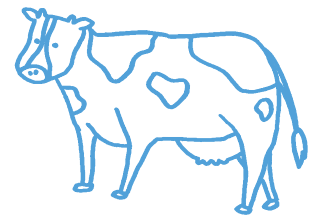
弊社としても我が国の酪農産業の力強い未来を感じさせた今大会の一助に関わることができ、うれしく感じていると共に、今後とも酪農家の皆様のお役に立てるよう精進して参りますので、今後ともよろしくお祈り申し上げます。



理想の酪農を実現するために

公益財団法人森永酪農振興協会主催

平成27年度 酪農経営発表大会



2015年11月13日(金)に北海道帯広市の「ホテルグランテラス帯広」で

公益財団法人森永酪農振興協会主催の平成27年度酪農経営発表大会が

地元をはじめ全国の酪農家や関係者など約80名が参加し、盛大に開催されました。

主催者を代表して田村賢事務局長(森永乳業株式会社取締役常務執行役員酪農部長)から

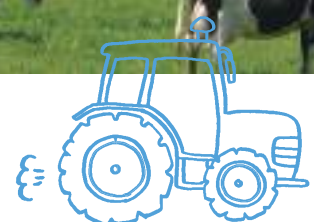
開会挨拶が行われ、酪農経営発表の部では、全国から推薦された酪農家3名が

それぞれの経営の特徴などについて発表されました。

講演の部では、帯広畜産大学フィールド科学センター教授の木田克弥様から

「乳牛における飼料給与・品質が健康や繁殖に及ぼす影響」と題して講演が行われました。

詳細は、森永酪農振興協会HP[<http://morinaga-shinko.com>]または弊社HPからどうぞ。





DO IT YOURSELF —朝霧メイプルファームのチャレンジと成果!

静岡県富士宮市
朝霧メイプルファーム(有)
丸山 純

朝霧メイプルファーム(有)は牛が快適で健康に過ごす環境を整えるために「自分たちでできることは自分たちでやる」ということを実践しています。

丸山さんは生乳生産量の増加は経営の結果であって、牛を健康に飼養することで疾病が減少し、繁殖が改善され、その結果として生乳生産量が増加するとの考えです。就農した平成21年当時は1日1頭当たり32kg程度の乳量でしたが、疾病が多く従業員のモチベーションが低く牧場の雰囲気も良くなかったそうです。そのため、三大疾病である①乳房炎をなくす、②蹄病をなくす、③周産期病をなくす、という目標を立て牧場一丸となって取り組むことにしました。

乳房炎についてはオンファームカルチャー(搾乳前検査でブツが出た時点で乳房炎の原因菌を牧場内で自ら培養検査を行うこと)に挑戦しました。これにより迅速に効果的な抗生物質の選択が可能となり、また菌の出ていない生乳の不要な廃棄を回避できるようになりました。現在は菌の発生そのものを

抑制する予防に注力しているそうです。

蹄病については海外製の杵場を導入して、女性でも一人で蹄の処置ができる体制を整えました。

異常を見つけたら直ちに治療することで蹄病由来の廃用牛は大幅に減少しました。

乳房炎・蹄病の取り組みによって空いたスペースを利用して、分娩後3週間の牛を別管理することが可能になりました。毎日1頭毎に観察し、飼料の食い込み状況により熱、乳房炎、血液検査(ケトン体と血糖値)を牧場内で自ら調べ、早期対処をしています。

これらの取り組みにより4年で出荷乳量は50%増加しましたが、何よりも従業員の責任感とモチベーションが向上し、みんなが協力しあってスキルアップする環境に変わったことが最大の成果だそうです。将来的には富士といえば酪農を連想させるような地域にしていきたいと考えています。



血液検査(左)、乳房炎原因菌の培養検査(中)、保定杵(右)





徹底した個体管理による利益の追求

岐阜県加茂郡
生駒牧場
生駒一成

生駒牧場は、何事にもチャレンジ精神をもって積極的に取り組み、効率的な酪農経営を追求しています。

以前は100頭搾乳をしていましたが、1992年にお父様が他界され、労働力の面からスケールメリット追求型の経営方針を転換せざるを得なくなりました。規模縮小を進めながらも所得水準を落とさないことを目標に、経営効率化の取り組みが始まりました。

夫婦間で仕事の分担、休み、給与などを細かく決めた家族労働協定を作成し、作業の責任を明確化にして、経営に対するモチベーションの向上を図るようにしました。

飼養管理面について、濃厚飼料と単味飼料を混合し自動給餌機で全頭に同量を給与していた時期があり、このため泌乳後期に過肥となり、分娩後の事故、繁殖障害、周産期病の多発と悪循環を見直しました。それは獣医師の奨めで牛群検定に加入し、分離給与による濃厚飼料給与量の調整と乾乳期の管理徹底をおこなったことで、分娩後のケト-

シス、第四胃変位、起立不能などの周産期病が激減し分娩間隔も短縮、そして乳量も増加しました。

カウコンフォートと作業効率の向上を図るために牛舎も2階部分を撤去し、扇風機を10台導入して風通しを良くすることにしました。

安心して搾乳できるように後継牛は自家育成を基本とし、雌雄判別精液も積極的に利用して自家授精をしています。また、所得向上のため自家移植によるET和牛の生産も始め、稲作農家に堆肥を還元して稲ワラを肥育農家へ斡旋するなど、地域の耕畜連携の要を担っています。

自給飼料は以前から積極的に作付けをしていましたが、地域で遊休地が増えてきており、自分が土地の有効利用と農地の保全をやらなくてはと一念発起し、借地を増やし自給飼料の増産に取り組んでいます。これからも自給飼料の生産を拡大して飼料コストの削減を進め、地域と連携した経営を目指していくそうです。





牛に寄り添った牧場を目指して

北海道広尾町
小田牧場

小田治義

小田牧場は、1996年に新規就農し、「牛を牛らしく健康に飼う」という考えのもと夫婦2人で管理の行き届く規模での酪農経営をしています。牛のストレスを軽減するため牛舎はフリーバーン方式を採用し、牛舎内部は可能な限り壁や柵を排除して外周も電牧で囲い、見通しを良くしています。

飼養管理方法も1999年から管理の手間が余りかからず、牛本来の姿に近い放牧を基本にしました。また、飼料給与は長い繊維が不可欠と考えて新規就農時から貯蔵飼料は細断サイレージではなく全量ロールサイレージにしています。就農前のヘルパー時代に牛たちが緻密に栄養設計されたTMR飼料の他に寝ワラを食べていたのを目の当たりしたからです。配合飼料は乳量に応じて給与量を調整していますが、細かな栄養設計はせず、不足分は牛が自ら乳量を落として調整してくれると考えています。

牛の行動をできるだけ制限しないようにするために、夏期は昼夜放牧で牛舎と放牧場を牛が自由に行き来でき、冬季も牛舎を閉め切らず常にパドックとの行き来ができるようにし

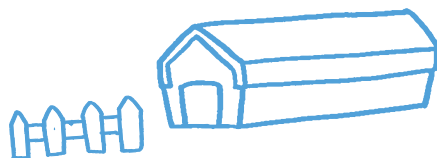
ています。

放牧地は15haを4牧区に分け3日程度滞牧させていますが、天候条件が毎年異なる中で牛の採食量と放牧地の草量のバランスを取るの難しく、これをうまくコントロールするのが放牧酪農の魅力の一つだそうです。

繁殖は自家授精を行っており、分娩後40日から授精を開始し、発情兆候が微弱でも積極的に授精をしています。牛が健康であれば繁殖状態もよく、発情が来ないときは牛の体調が整ってこないためと考えています。

牛の更新は大きな可能性を持つ後継牛を繰り入れて積極的な更新を進めています。廃用で出荷するのではなく、搾乳牛として出荷することで経営面でも有利に働いています。

牛に対し人がコントロールできる部分は限られており、牛を牛らしく健康に飼うことが牛の持つ能力を最大限に引き出せるとの考えのもと、今後も土、草、牛に対する理解を深めていくそうです。





乳牛における飼料給与・品質が健康や繁殖に及ぼす影響

帯広畜産大学畜産フィールド科学センター教授
木田克弥

北海道の酪農生産現場において、様々な飼養管理技術が発展しているにも関わらず、個体乳量の増加に伴い分娩間隔が伸びている実態となぜ繁殖が悪くなっているのか？という切り口から周産期病や繁殖の関係を解説し、高品質な粗飼料の重要性を訴えました。

家畜共済事業統計によると乳牛の死産事故の50%は周産期病によるもので、周産期病になると初回授精日数や空胎日数が延長します。これは疾病に対抗するために副腎皮質ホルモンのコルチゾールが分泌され、正常な繁殖ホルモンの分泌が減退するためです。また、近年の乳牛は改良が進み遺伝的に高泌乳牛が増えていますが、分娩後のエネルギーバランスが大きくマイナスになると繁殖ホルモンの生成自体が減退し、繁殖が悪化します。

このエネルギーバランスを是正するために濃厚飼料を多給すると、ルーメンアシドーシスを引き起こします。アシドーシスにより微生物が活性を失うと同時にエンドトキシンが生成されます。1日当たりの濃厚飼料の給与量だけでなく、分娩後の増給スピードも非常に重要だと解説されました。

分娩後1kg/日増給する群と、500g/日増給する群に分け、最終的な1日あたりの濃厚飼料給与量を同一にする実験では、1kg/日増給群では急速にエネルギーバランスは良くなりますが、500g/日増給群と体重や乳量に差はなく、逆にルーメン内のエンドトキシン濃度の増加が確認されました。さらにエンドトキシンは同一給与量になっても暫くの期間残留することが確認されたそうです。

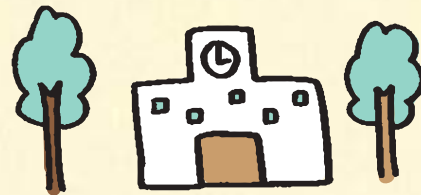
サイレージも部位によって品質にバラツキがあり、乳中尿素窒素(MUN)は日々大きく変動するため月に1回などの検査では正しく状態を把握することは困難になります。また、品質が低下するとタンパクが揮発性塩基性窒素(VBN)に分解されるため嗜好性が低下しますし、気温上昇によるカビからマイコトキシンが発生することで肝機能障害から繁殖障害にも繋がります。

高泌乳牛は栄養要求量が大きく、エネルギーバランスはマイナスになりがちですが、牛の健康を保つには、高品質な粗飼料を飽食させ分娩後の濃厚飼料の増給スピードを緩やかにさせることが非常に重要と力強く訴えていました。





めざせ 未来の 酪農家



酪農家をめざす
農業高校・大学の学生を
ご紹介します。

鹿児島県立鹿屋農業高校

鹿児島県立鹿屋農業高校は鹿児島県大隅半島の鹿屋市にあり、今年で120周年を迎える歴史ある学校です。学科は畜産動物学科、農業科、生物工学科、農業機械科、緑地工学科、生活科の6学科あり、それぞれ1学年40名です。

今回は畜産動物学科の皆様にお話しを伺いました。畜産動物学科ではブロイラーと採卵鶏、乳牛、肉牛、豚を飼養しており、1年生は主にブロイラーを担当し、2年生からは専攻班(乳牛、肉牛、豚)に分かれます。現在、乳牛専攻班には2年生13人、3年生14人の27名が在籍し、濱崎先生、鶴田先生と下園先生が指導されています。卒業後は農業大学校への進学や畜産関係の仕事に就労する生徒が多いとのこと。

乳牛専攻班では1人、又は2人に1頭の担当乳牛があり、責任を持って1頭ずつ飼養しています。また、共進会にも力を入れています。鹿児島県共進会でも上位入賞の常連で、今年は全国ホルスタイン共進会(全共)に3頭出品しました。共進会を通じて地域の酪農家と交流を深め、乳牛に関する知識も教えていただき、また、生徒が日頃の成果を披露する場と

なっています。

先生方に乳牛専攻班で生徒に学んでほしい事を伺ったところ、濱崎先生は「命の大切さを感じ、責任感を持ち、手を抜かずに取り組んでほしいです。全共では日頃から生徒達が精一杯考えて飼育した牛を披露して、上位入賞を狙いたいです」、鶴田先生からは「酪農家は減る一方で後継者不足に陥っています。乳牛専攻班では技術はもちろん酪農の楽しさを感じてほしいと思っています。卒業生から新規就農者が出てくれると嬉しいですね」、下園先生は「酪農・農業を通して作物を生産する大変さや難しさを学ぶことで、日頃の食への感謝、食の安心・安全、農業が重要な産業であることを感じてほしいです」と、生徒たちに期待を抱いていました。

現在、乳牛専攻班には3人の酪農後継者がいます。そのうちの1人、森重明輝(はるき)君から鹿屋農業高校で何を学んだかお聞きしました。森重明輝君「高校では乳牛と向き合うことで命の大切さを学びました。生き物を相手にする仕事は大変ですが、それ以上に喜びと魅力のある仕事だと思っています。卒業後は短大に行き、乳牛の知識を深め就農したいと考えています」と、後継者不足が問題の中で、非常に頼もしい返答をいただきました。



3年生が全共出品牛を囲んで。



キーナンのTMRミキサーは「物

栄養学的にバランスのとれた設計のTMRであっても、ルーメン醗酵が悪ければ、無駄が生じます。

物性を整える事で、TMRのルーメン醗酵を高め、生産性の向上と牛群の健康に貢献することが、キーナンの提唱する「物理的栄養」の考え方です。



キーナンのミキサーが作るTMRの3つの大きな特徴

特徴

1

粗飼料を鋭利に、そしてほぼ一定の長さに切断

粗飼料の鋭利な切断面は、ルーメン壁への刺激効果を増し、反芻を促進します。その結果、TMRの醗酵が改善され、更には、ルーメン内のpHが中性に近くなるよう貢献します。

特徴

2

均一な混合

ミキサーの構造上の特性から、TMRの撒き始めと撒き終わりの飼料のバラツキが、1%以内に収まります。配合飼料の選り食いもなく、設計通りの摂取を可能とします。

特徴

3

鳥の巣状のフワツとした仕上り

攪拌中の圧力を軽減し、TMRがフワツとした鳥の巣状に仕上がるので、ルーメン液がルーメン内で均質に行きわたり、醗酵・分解を促進します。

これ等の特徴によって、TMRの醗酵・分解が増加して、より有効的に活用されるため、飼料代の節約や、乳量の増加に直結し、又、ルーメン内のpH

が中性に近くなることで、ルーメンの健康、牛群の健康増進にも貢献します。

多機能管理システム PACE

キーナンのミキサーは、PACE（ペース）と合わせて使っていただくことで、その性能をフルに発揮します。PACEはミキサーに装着する計量ユニットですが、計量だけでなくIT技術を応用した多機能な管理システムになっています。

1. PACEに100通りのTMR設計メニューを記憶させることが出来るので、TMR作りに際して、希望のメニューと給餌頭数をインプットすれば、原料投入の順番、量、攪拌時間を自動的に表示し、無駄の無い最適な物性のTMR作り

「物理的栄養」を皆様にお届けします

表1 キーナンと縦型オーガーミキサーの比較

	乳量	乾物摂取量	飼料効率(FE) (乳量/乾物摂取量)	タンパク質	乳脂肪	ルーメン内pHが 6以下の時間数
キーナン	30.9kg	20.7kg	1.49	3.57%	3.87%	5.3
縦型オーガー	28.5kg	22.9kg	1.25	3.26%	3.82%	7.3
変化量	8.4%	△9.6%				

スコットランドの大規模農家で、キーナンのミキサーと縦型オーガーミキサーの成績を比較したものの。乳量が28.5kgから30.9kgに8%以上増える一方で、乾物摂取量は22.9kgから20.7kgへ9%以上減っています。また、ルーメン内pHが6.0以下の持続時間が7.3時間から5.3時間に減少することが報告されています

表2 機種

機種名	MF300	MF320	MF340	MF360	MF400
容量 (m ³)	12	14	16	20	28
必要馬力	80馬力	80馬力	90馬力	110馬力	120馬力
給餌頭数目安 (酪農)	40頭	60頭	80頭	120頭	160頭

機種は容量に応じて5機種あり、各機種にロール裁断機搭載のオプションがあります。また、お客様のご要望に応じた特別仕様も可能です。



ロール裁断機 (オプション)

を可能にします。

2. 毎回のTMR作りの内容はPACEによって記録されるので、PACEをパソコンに接続し、データを写し取れば、パソコン上にTMRの生産データが蓄積されていきます。予め原料原価をインプットしておけば、TMRのコスト管理も可能です。
3. パソコンに写し取られたTMRの生産情報は、搾乳量などの生産データと日付毎にリンクされ、PACEが飼料効率を自動計算し、記録として蓄積して行きます。この飼料効率の推移は、

有効な経営指標として、比較分析、成績履歴の追跡や今後の改善に役立ててすることができます。



PACE (ベース)

「物理的栄養」で実現する画期的なアプローチ

キーナンのTMRミキサーは、「物理的栄養」によって、反芻動物の栄養学に対する画期的なアプローチを実現します。飼料の物理的構造に焦点を当て、分解・吸収率を改善することで、飼料の利用度高めます。飼料代の節約を可能にすると同時に、酪農では乳量の増加を、肉牛生産では増体の促進に貢献します。これ等の結果はいずれも経営に直結する

内容です。間接的にも、牛群の健康増進や、メタンガスの発生を抑制する等の環境保全の面での大きなメリットもあります。

厳しい経営環境の中、将来に向けて持続可能な畜産経営のためのソリューションとして、ぜひキーナンのTMRミキサーをご検討ください。

キーナンのTMRミキサーの詳細は、
最寄りの森永酪農販売(株)支店・営業所へお気軽にお問い合わせください。

目指せ酪農ピカソ!



こんな牧場をつくりたい

第5回 (株)優成 [北海道標津郡中標津町]

酪農の未来を担う子どもたちに、夢の牧場を描いてもらいました。今回は北海道・(株)優成(中標津町)の仲良し姉妹の作品をご紹介します。



かりな 伽里苗ちゃんの作品



次女
吉澤伽里苗ちゃん
[9歳]

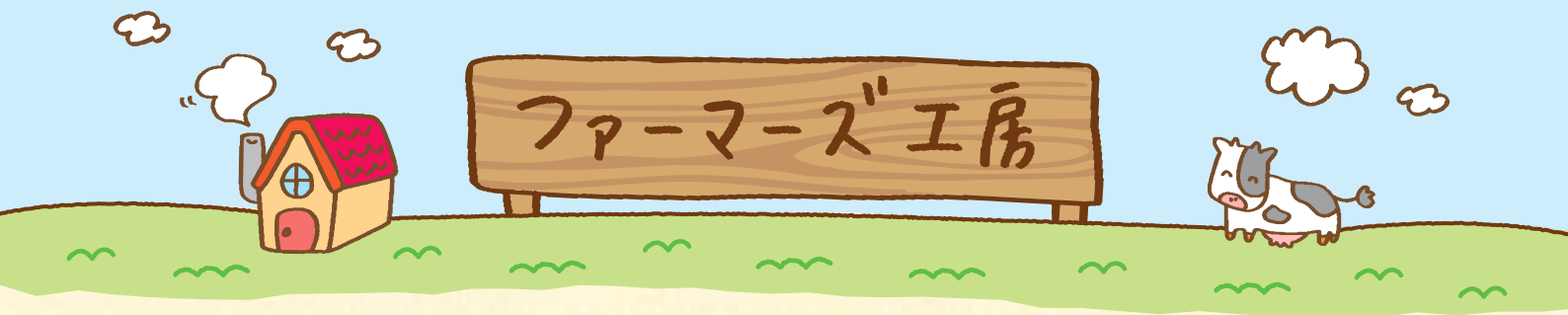
学校が休みの日は必ず牛舎の仕事を手伝いに来ているという牛が大好きな伽里苗ちゃん。将来は自分の牧場を持ちたいと話しているそうで、カリナ牧場のデザインもしてくれました。

あゆな 歩苗ちゃんの作品



三女
吉澤歩苗ちゃん
[6歳]

哺乳のお手伝いをしているという歩苗ちゃん。ミルクをたくさん飲んで元気に育ってほしいという思いを込めて描いてくれました。描かれている耳標番号は自分の好きな牛だそうです。



兵庫県多可町 ^{はせがい} 株式会社箸荷牧場 ^{ワッカ} 「wacca」



58種類にもなるジェラート。

お勧めのプリオッシュコーン。アップルパイ味のジェラートをトッピング(上)、のむグルト(下)

2015年5月8日より乳製品を販売する部門が始動しました。店の名前は「wacca(ワッカ)」。文字通り「輪っか」を意味し、人の輪・和を熟成させる場にご貢献したく考えて命名しました。遠くから来られる方はもとより、地域に根差して地元の人々の憩いの場となれる様に取り組んでおり、今後も地域への貢献の場、多くの方が交流する場所を目指しています。

2015年11月現在のメニューは、飲むヨーグルト「のむグルト」、ジェラートS(2種盛)、ジェラートM(3種盛)、プレミアムソフトクリーム、チーズ(ゴーダ・割けるチーズなど)、本格的なアイスクリームやホットコーヒー、数量限定のプリオッシュ・コン・ジェラート、などなど。オープンからの半年間でジェラートは58種を生み出し、地元産の旬のフルーツも使いながら果肉をたっぷり使用したジェラートになっています。フルーツの種を取るのが大変ですが手間ひまかけて製造されています。

飲むヨーグルト「のむグルト」は甘さ控えめでスッキリした味わいで、つつい飲みすぎてしまう美味しさですが、お店のイチ押しで絶品なのは数量限定のプリオッシュ・コン・ジェラートです。注文すると、ふっくらしたパンに自分で選んだジェ

ラートを山盛りにトッピングしてくれます。お勧め商品があり過ぎて紹介しきれないほどです。

テラスには芝の広場があり、子供連れのお母さんもゆっくりできる雰囲気です。店内もおしゃれな机や椅子が並び、老若男女がくつろげる空間になっています。今後、人の輪がさらに広がる場となりそうです。今後はランチメニューも始まる予定で、ますます期待大の「wacca」です。

ジェラートは全国発送しています。お好きなジェラートを選んで箱詰め(6個入、8個入、12個入)にして発送致します。



株式会社箸荷牧場「wacca」

〒679-1335 兵庫県多可郡多可町加美区門村546-4

Tel.0795-20-8528 Fax.0795-20-8529

営業時間:10:00~17:00 定休日:毎週火曜日 *土日は不定休

<http://www.hasegai-dairy-farm.jp/store/>



M'S Kitchen

エムズキッチン

レシピ



森永乳業の出張スタイル料理講習会「M'S Kitchen」おすすめの
乳製品を使った簡単レシピをご紹介します。



サバとクリームソースのショートパスタ

あっあっが
おいしい!!

材料(3人分)

- サバ水煮缶詰 100g
- ベーコン 1枚
- キャベツ 100g
- 玉ねぎ 1/10個
- パセリ 1/2本
- 森永のおいしい牛乳 250ml
- 水 300ml
- クラフトスライスチーズ 2枚
- ショートパスタ(ペンネなど) 120g
- 塩 少々
- ブラックペッパー 少々
- クラフト100%パルメザンチーズ 大さじ2



1人分
353
kcal

作り方

- ① サバ水煮缶詰はサバと缶汁に分け、サバは一口大にします。ベーコンとキャベツは細切り、玉ねぎは薄切り、パセリはみじん切りにします。
- ② 鍋に牛乳、水、①の缶汁、ベーコンを入れて煮立たせます。ペンネを加えて時々混ぜながら中火で5分加熱し、キャベツ、玉ねぎ、スライスチーズを加えて時々混ぜながらさらに10分位煮込みます。
- ③ ペンネがやわらかくなったら①のサバを加えて軽く混ぜ、塩、ブラックペッパーで味をととのえます。
- ④ 器に③を盛り付け、パルメザンチーズとパセリをかけます。

栄養価
(1人分)

たんぱく質
19.8g

脂質
13.8g

炭水化物
35.5g

カルシウム
319mg

塩分相当量
1.2g



おいしいポイント

- DHAやEPAが豊富なサバの缶詰を使った、鍋一つで手軽に作れるクリームパスタです。
- たっぶりの乳製品がサバの臭みを和らげます。乳製品、ベーコン、サバの旨味で、塩分控えめでも満足感のある味わいが堪能できます。たんぱく質、カルシウム、ビタミンB群、ビタミンDなど不足しがちな栄養も美味しく補えます。

MEMO 冬の風邪対策にも牛乳・乳製品!

気温が下がり空気が乾燥する冬は、風邪に罹りやすい季節です。免疫力を高め風邪を引きにくい身体を作るためには規則正しい生活や、たんぱく質、ビタミンA、ビタミンB群、ビタミンCを多く含む食品がおすすめです。たんぱく質は肉や魚、牛乳に含まれ基礎体力の維持に欠かせません。ビタミンAは緑黄色野菜に、ビタミンB群は豚肉や青魚、牛乳に多く含まれます。牛乳に少ないビタミンCはパプリカや柑橘類から補うことができます。また、魚介類や牛乳に多く含まれるマグネシウムは血流を促進し、冷え性を予防します。基礎体温が下がると免疫力も低下しやすいとも言われています。寒い日にはホットミルクで温まりましょう。



◎森永のおいしい牛乳

本来の牛乳の味である「コクがあるのにすっきりキレのある味」を再現しています。そのポイントは殺菌方法の違いにあります。加熱・殺菌時間を短くすることにより、加熱臭の原因物質の発生を抑え、たんぱく質や糖質などの成分の変化を抑制することができました。もうひとつのポイントは脂肪球の大きさです。成分を調整しない生乳でコクを出すために脂肪球の大きさまでこだわり、普通の牛乳より大きめにし、コクがあるのにすっきりキレのある味が実現できました。



球磨酪農農業協同組合女性部と 錦町子育てサークル「ももクラブ」

M'S Kitchen
開催レポート

- 開催日時: 2015年10月1日(木) 10時~13時
- 開催場所: 熊本県球磨郡錦町 保健センター調理室
- 参加人数: 45名



2015年10月1日、熊本県球磨郡の球磨酪農農業協同組合女性部の皆様、森永乳業(株)九州支店の栄養士、笠さんとお客様相談室長の古賀さんの2名を講師に迎えてM'S Kitchenを開催しました。

今回は熊本県球磨郡錦町子育て支援センターの全面的な協力もあり、同町子育てサークル「ももクラブ」の皆さんがお子様を連れてのコラボレーション開催となりました。

メニューは人気の「フライパンで具たくさんピザ」、「まぜまぜコーンスープ」、「ふわとろマシュマロデザート」の3品を作りました。笠先生による調理前の講義では、女性や子供が牛乳、ヨーグルトなどの乳製を摂取する重要性と、森永乳業独自の乳酸菌BB536の詳しい説明がありました。

実際に牛乳乳製品の手軽な活用術が披露されると、多くの参加者から「想像していなかった牛乳・乳製品の『裏ワザ』活用術に驚いた」、「思っていたより手軽に使えて、より美味

しくなる」など、うれしい言葉をたくさんいただきました。

今回は未就学の児童も参加したので、食物アレルギーの事前チェックも入念に行いました。小さい子供でも調理に参加できる様に工夫したメニューということもあり、幅広い年代が協力しながら、子供たちがピザ生地やデザートを一生懸命料理する光景はとても微笑ましく写りました。

初めてのコラボレーション企画も、和やかな雰囲気の中で料理が仕上がっていき、「ご一緒にいただきます」を合図に全員で試食しました。驚いたのは子供たちが想像以上に沢山食べ、「美味しい」の大きな声を聴けたことです。

最後には牛乳乳製品に関するクイズもあり、楽しいひと時を過ごしながら無事終了しました。

今後もこのような企画を通じて、酪農への理解や牛乳乳製品の利用拡大へ役立てていきたいと感じた秋のひとつときでした。

[レポーター:九州支店球磨営業所 関根博昭]

M'S Kitchenを開催しませんか?

M'S Kitchen(エムズキッチン)は森永乳業の出張スタイルの料理講習会です。講師を派遣いたします。

- 開催日時: 平日午前10時30分~ ●講習時間: 3時間
- 場所: 調理実習が可能な会場をご用意ください。
- 費用: 会場費、食材費(森永乳業商品代金は除く)をご負担いただきます。
※材料費は1名様あたり500円程度

◎申込人数、開催時間は開催地域により異なります。
詳細は森永乳業のホームページをご覧ください。

森永乳業 料理講習会 検索

http://www.morinagamilk.co.jp/learn_enjoy/mkitchen/



北海道支店長 曾根寛文



おかげさまで弊社は今年4月に創業10周年を迎えます。これはひとえに皆様のご理解とご協力があつたからこそ継続できたと思います。

弊社は全社員が企業理念のもと、お客様のお役に立つにはどうしたら良いか、お客様の相談相手になっているのか、お客様の笑顔を見るにはどうすれば良いかを常に考え、日々行動しています。

北海道においても全国同様、メガファームなどの法人経営とファミリー経営との二極化が進んでおり、飼養形態においてはフリーストール、フリーバーン、係留牛舎、放牧、搾乳ロボット、TMRセンターの活用等さまざまな形態があります。経営形態や飼養形態がどんな形であれ、生産コストの低減化を図っていくことは今後最重要課題であると認識しています。そのため、北海道の強みである自給飼料のコーンサイレージやグラスサイレージ、道産牧草を効率利用して、最大限に生産コストダウンができるようにご提案していかなければならないと考えています。

時代の変化は年々スピードを増しており、そのスピードに乗り遅れないように対応していくとともに、明るく笑顔あふれる環境をお客様と一緒に作り、お客様と楽農を目指していきたいと思ひます。今後とも引き続きよろしくお願ひ致します。

東北支店長 古川竜司



この度、弊社創業10周年を無事迎えられること、これまで弊社製品および弊社営業マンをご愛顧いただき、育てていただいたことを深く感謝致します。

弊社が創業した平成18年には全国的な計画生産(いわゆる生産調整)が実施されました。酪農界には大きな混乱と不安が起き、追い打ちをかけるように飼料価格の大高騰が起きました。それらの逆風の中で、弊社は決して順風満帆な船出ではなく、大きな不安と厳しい情勢の中で「如何に皆様に認められるか!」という決意の中の船出でした。

平成22年には宮崎県で口蹄疫が、平成24年には東日本大震災が起り、当支店がある仙台港も大きな被害を受けました。直接影響を受けた皆様のことを考えると軽々しく言えませんが、これらの災害の中で私たちに出来ることの微力さを痛感するとともに、酪農家の皆様がいるからこそ、弊社は成り立っていることを痛感させられました。

創業10年を迎え、これからの再出港もTPPを含めた国際化の波など、これまで以上に厳しい船出となりますが、これからも酪農家の皆様から「森永酪農販売の営業マンと出会えてよかった!」と思っただけのよう支店一同尽力して参りますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

取締役関東支店長 奥田和綱



関東支店は「One for all, All for one」をスローガンに皆様に訪問しております。ちょうど昨年はラグビーワールドカップが開催され、日本代表が3勝しました。この大会で私が大注目したのが日本代表のスクラムです。南アフリカ戦では同点のペナルティゴールを狙わずスクラムを選択し、ロスタイムにトライ! サモア戦ではスクラムで押し切り、認定トライまで取りました。大きな相手にも全員で集中して戦う。首と体幹、全身を徹底して鍛え上げ、下半身の柔軟性を活かした低い組み方は本当に理想的で感動しました。酪農乳業界もTPP参加でアメリカ、ニュージーランドそしてオーストラリアと熾烈な競争に突入することになります。世界と戦うための我々の強みは「品質」です。乳牛の健康管理、能力を引き出すために良質な飼料をバランスよく給与していただき、消費者に自信を持ってアピールできる「品質」をさらに強化する、そのお手伝いを会社全体で実行いたします。

次の10年に向けて、お客様の一番近くで、一番お役に立つ会社を目指してサポートいたします。皆さまのお力添えを頂きながら、酪農乳業の発展に精一杯貢献してまいりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

関西支店長
今西芳正



弊社は皆様方のお力添えを頂き、本年4月に会社創設10周年を迎える事が出来ます。皆様への御恩をお返ししていけるよう、微力ではございますが、誠心誠意取り組んで参りたいと思っておりますので、宜しくお願い申し上げます。

昨年はTPP交渉が大筋合意され、先行き不透明な中、大きな変化が今後起きうる事も予想されますが、弊社としましては、今まで以上に「健康な乳牛つくりと飼養管理」「食の安全・安心」を主眼に置きながら、皆様方の良きパートナーとして認めて頂けるように一緒に取組ませて頂き、共に「楽農」を目指して参りたいと思っています。

弊支店のご当地、阪神タイガースも金本新監督のもと、「超変革」をチームスローガンとしてスタートを切りました。この言葉の意味は「球団が一丸となりファンと一緒に超変革を実現していく」との事です。弊社も全社一丸となり、お客様と一緒に「楽農」を実現出来るように、常に向上心を持って参りたいと思います。

酪農界も生乳生産の回復基調、子牛産子の価格高騰など、明るい状況となりつつあります。弊社も全力で取り組んで参りますので、今後も宜しくお願い申し上げます。

九州支店長
柴村一英



皆様には日頃より、弊社製品に対しましてご支援、ご愛顧賜り誠にありがとうございます。弊社は本年4月に創業10周年という節目の年を迎えることとなります。この間、穀物相場高騰による輸入飼料の高騰、また九州地域においては、台風常襲地域であることに加え、近年の温暖化による集中豪雨、西南暖地特有の乳牛の暑熱ストレスへの対策、また口蹄疫等の家畜伝染病発生など厳しい年の連続でした。そのような中、弊社が企業理念にあるお客様と一緒に考え行動する事、お客様の経営にプラスになるご提案を心掛け微力ながら尽力してまいりました。皆様には変わらぬご愛顧を賜りましたことに重ねて厚く御礼申し上げます。

これからの10年も昨年末のTPP合意等、先行き不透明な部分も多いですが、九州は都府県生乳生産の約20%を占め、域内はもとより、関西を中心とした消費地への高品質で安心安全な国産生乳乳資源の供給地域として益々重要な位置付けとなると考えられます。

末筆ではございますが、毎日たゆまぬ努力で生乳生産している皆様に感謝する気持ちをお伝えするとともに、今後とも弊社製品並びに営業担当者に変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

常務取締役ミック事業部長
遠藤健治



弊社ミック事業部は東日本大震災のあった平成23年4月1日に森永酪農販売株式会社の一員になりました。当事業部の那須農場と熊本県相良村では球磨酪農農業協同組合様のご支援を得ながら同組合の育成牧場に九州ETセンターを併設して育成牛の預託業務を行っています。東日本大震災では那須農場および那須ETセンターも大きな被害を受けましたが、皆様方のご支援、ご愛顧により預託頭数も順調に回復して来ました。誠にありがとうございます。農場スタッフは日々『健康で丈夫な牛を育てよう!!』を合言葉に牛の育成に励んでいます。また、当事業部は受精卵移植を基幹技術としていることから、牛の繁殖分野にも力を入れており、『長命連産』を目指して各支店と密に連携をとりながら繁殖のご相談などをさせて頂いています。畜産の情勢、世界の情勢、気候の変動等々これからは変化の連続と思われれます。この中にあるも常に『お客様の良きパートナー』としてお役に立てるように常に研究心を持ち続けて業務に取り組んで参ります。

ミック短信

森永酪農販売 ミック事業部の活動や情報をご紹介します。



事業紹介

◎那須農場・那須ETセンター

[乳牛および和牛の受託飼育事業]

那須農場では、500頭規模で受託飼育を行なっています。ホルスタインの育成牛では、概ね4ヶ月~12ヶ月齢でお預かりして、お客様の御希望に基づき、和牛受精卵、ホルスタイン♀精液等々を用いて妊娠処理をしています。又、乳牛及び和牛の受精卵採取用のドナー牛もお預かりして、受精卵の採取・凍結保存も行っています。受精卵採取用のドナー牛と受卵用としてホルスタイン育成牛の両方を一緒にミックに預託されるお客様もいらっしゃいます。受胎した牛は、妊娠3ヶ月から分娩前2ヶ月前までにお客様の下に帰ります。お預かりする牛は、栃木県を中心として関東、東北、遠くは関西、北陸方面からも来ます。入牧と退牧はお客様とお打合せの上、随時行なっております。空頭数(預託可能頭数)は常に変動しておりますので、御希望の方は、都度、お気軽に担当の弊社営業担当にお問い合わせください。

技術情報

◎早期妊娠診断について

ミック受託飼育牛では、30日令で超音波診断装置(エコー)による早期妊娠診断を行っています。妊娠している牛は、黄体形成があり、子宮角内に濁りのない液体貯留があり、胚(胎子)が確認できます。30日令の胚の大きさは約1センチと小さいのですが、ちゃんと心臓の拍動を確認することができます。診断では、残念ながら妊娠していなかったり、妊娠保留にする牛もいます。胚の心拍がゆっくりの場合や胚のサイズがより小さい場合、貯留液に濁りがある場合などは胚死滅の途中である可能性があります。30日令では、まだ子宮に着床していないため、妊娠中でも約1ヶ月後に次の妊娠診断を行います。30日令の診断は、空胎牛の摘発チェックであり、いかに次の妊娠処理を迅速に行なうかが大事になります。

◎九州ETセンター

[受精卵の採取・凍結保存並びに繁殖検診・繁殖相談]

当センターは、球磨酪農農業協同組合・育成牧場(熊本県球磨郡相良村)内に設置させて頂いています。球磨郡管内はもとより弊社九州支店のお客様の牛から受精卵の採取と凍結保存を行なっています。配合飼料のユーザー様のご要望に応じて、繁殖検診・繁殖相談にも取り組んでいます。

◎ミックのたまごドナー情報

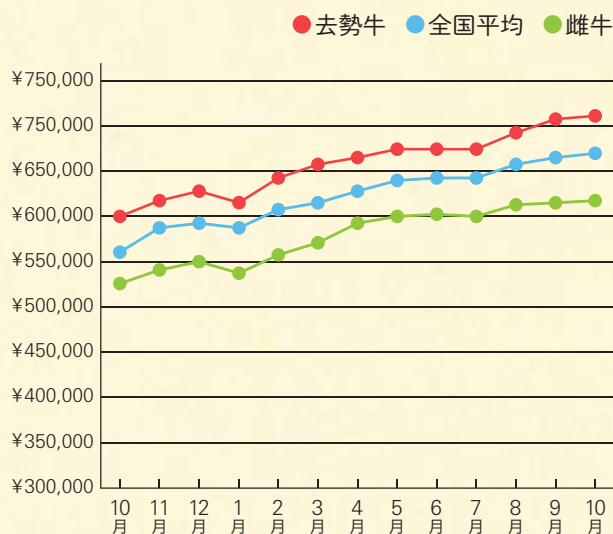
[受精卵の採取・凍結保存並びに繁殖検診・繁殖相談]

鹿児島県育種価第1位「幸紀雄」の受精卵あります！JAなすのより「優良生産者賞」を受賞しました！弊社HP上に、毎月、ミック受精卵リストを更新して掲載しております。HPの酪農情報ガイドからお入り下さい。

参考情報

空前の
高値価格

◎全国における 和牛子牛価格の推移(過去1年間)





自作のカーフハッチにより 換気能力とコストの低減を実現

北海道の道北、冬はマイナス30℃以下になる名寄市の有限会社さしかわ畜産、岸川春巳さんは乳用種肥育素牛の生産者で、家畜市場から導入してきた子牛の哺育管理に自作のカーフハッチで個体管理を行っています。数年前までは高さ120cmの一般的なカーフハッチを自作して使用してきました。夏季はハッチを野外に置き、間隔を広くすることで換気は難しくありませんが、積雪時期になるとハッチを牛舎に入れるので、どうしても換気が悪いために呼吸器疾患の牛がいました。そこで、厳冬期用の工夫として高さ150cmのカーフハッチを自作したことで換気能力を向上させることに成功しました。冬季は子牛それぞれに毛布をカーフベスト代わりにし、マイナス20℃

以下になるとジェットヒーターを用いて暖を取ります。素材にコンパネを使用することによって安価に仕上げることができます。また、ハッチ入り口の扉は板を差し込むだけの簡易な作りにしており、子牛の移動や掃除も容易とのことです。

市販のプラスチック制ハッチよりもコンパネで作成したハッチの方が暖を取りやすいなどのメリットもあり、岸川さんは「自作のカーフハッチの魅力は安価だけではなく、自分たちの作業がしやすいように製作できることが一番のポイントです」と語ってくれました。

[レポーター：北海道支店道北営業所 高山浩晃]



ハッチを並べることにより、同一の作業を続けて行えるため、作業効率に優れています(左)、防寒対策として毛布に包まれている子牛[旧ハッチ](右)

編集後記

「ファーマーズアイ・モリちゃん」2016年冬号をお届けします。弊社は皆様のご支援に支えられ創業10周年を迎えます。弊誌も若干のリニューアルを致しましたが、引き続きのご愛読をお願い致します。

表紙を飾って頂きました加藤牧場ですが、2014年3月に農業高校をモデルに公開された映画「銀の匙」のロケ地となりました。この看板写真から、ご覧になられた方は見覚えあるシーンが思い浮かぶと思います。

本年が皆様にとってより良い1年になりますことを、心より祈念しております。

[編集責任者 尾木滋]



デザイン：松本正樹、喜瀬みゆき[広告製版社]

森永酪農販売株式会社 事業所一覽

支店・営業所

北海道

- 1 北海道支店**
〒080-2463
北海道帯広市西23条北1-8-6
協同産業ビル3F
☎0155(61)0950
- 2 道北営業所**
〒098-5551
北海道枝幸郡中頓別町
字中頓別182
☎01634(6)1211
- 3 遠軽営業所**
〒099-0412
北海道紋別郡遠軽町豊里505-5
遠軽運輸(株)内
☎0158(42)4141
- 4 別海営業所**
〒088-2571
北海道野付郡別海町
西春別幸町51
☎0153(77)5111
- 5 十勝営業所**
〒080-2463
北海道帯広市西23条北1-8-6
協同産業ビル3F
☎0155(67)1032
- 6 札幌営業所**
〒061-1405
北海道恵庭市戸磯604
北海道森永乳業販売(株)
札幌物流センター内
☎0123(33)3129

東北

- 7 東北支店**
〒983-0001
宮城県仙台市宮城野区港1-1-9
東北森永乳業(株)内
☎022(387)3693
- 8 涌谷事務所**
〒987-0133
宮城県遠田郡涌谷町
字今左工門沖名47
☎0229(43)2910
- 9 岩手営業所**
〒020-0133
岩手県盛岡市青山2-3-14
森永乳業(株)盛岡工場内
☎019(647)2121
- 10 福島営業所**
〒960-8154
福島県福島市伏拝字清水内5
森永乳業(株)福島工場内
☎024(546)7621
- 11 山形事務所**
〒992-0472
山形県南陽市宮内4651-5
☎0238(59)1056
- 12 北東北支店**
〒018-3596
秋田県大館市岩瀬字上軽石野38-1
東北森永乳業(株)秋田工場内
☎0186(54)6114

関東

- 13 関東支店**
〒108-0023
東京都港区芝浦3-13-8
☎03(3798)0166
- 14 茨城営業所**
〒319-0209
茨城県笠間市泉1606-1
☎0299(45)2092
- 15 千葉営業所**
〒292-0014
千葉県木更津市高柳1465
☎0438(22)3010
- 16 南関東営業所**
〒252-1125
神奈川県綾瀬市吉岡東3-6-1
横浜乳業(株)内
☎0467(70)5811
- 17 長野営業所**
〒390-0837
長野県松本市鎌田2-1-4
森永乳業(株)松本工場内
☎0263(26)0330
- 18 北関東支店**
〒329-3224
栃木県那須郡那須町
大字豊原乙1-159
☎0287(72)6839
- 19 群馬営業所**
〒371-0001
群馬県前橋市荻窪町354-5
群馬中央酪農組合内
☎027(897)0303
- 20 埼玉営業所**
〒369-1245
埼玉県深谷市荒川12172
埼玉酪農組合内
☎048(584)1888

関西

- 21 関西支店**
〒663-8242
兵庫県西宮市津門飯田町2-95
森永乳業(株)近畿工場内
☎0798(66)1998
- 22 東海営業所**
〒483-8256
愛知県江南市中奈良町一ツ目1
森永乳業(株)中京工場内
☎0587(56)5433
- 23 奈良営業所**
〒639-2162
奈良県葛城市尺土104-3
☎0745(48)2155
- 24 徳島営業所**
〒771-1347
徳島県板野郡上板町高瀬1150-1
☎088(694)5933

九州

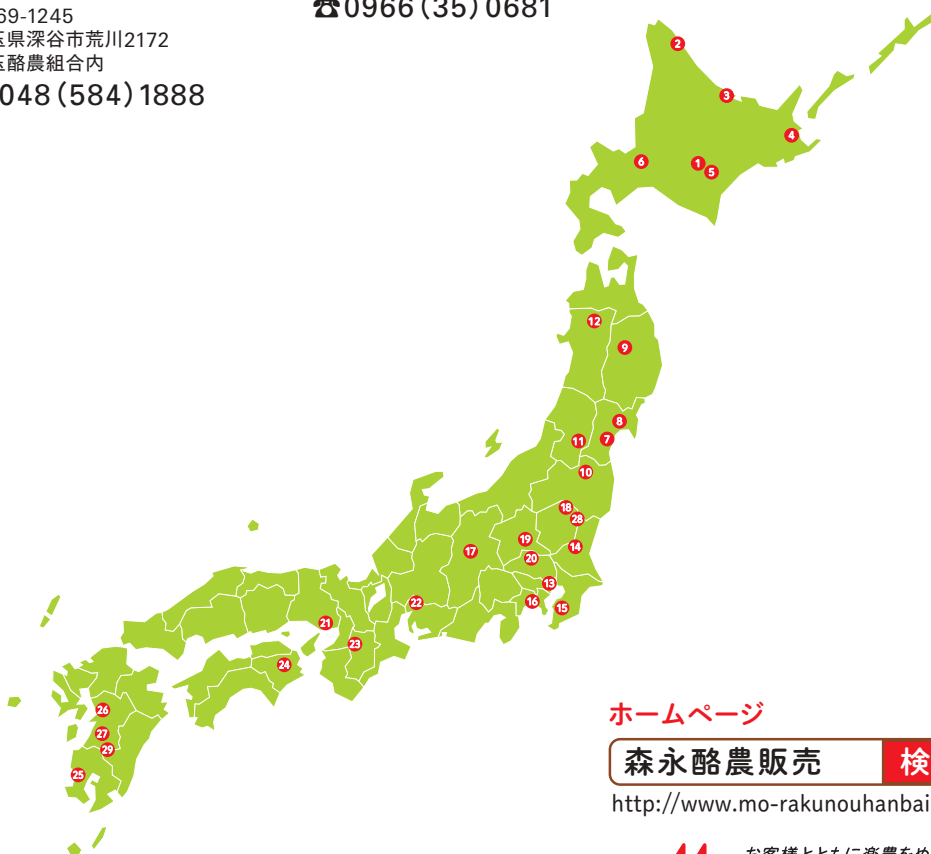
- 25 九州支店**
〒891-0141
鹿児島県鹿児島市谷山中央8-20-20
☎099(268)4111
- 26 熊本営業所**
〒861-8011
熊本県熊本市東区鹿婦瀬町431-1
熊本乳業(株)内
☎096(389)1411
- 27 球磨営業所**
〒868-0094
熊本県球磨郡相良村大字深水2251
球磨酪農組合内
☎0966(35)0681

ミック事業部

- 28 那須農場**
那須ETセンター
〒329-3224
栃木県那須郡那須町
大字豊原乙1-159
☎0287(72)0277
- 29 九州ETセンター**
〒868-0094
熊本県球磨郡相良村
大字深水2346-1
☎0966(36)2210

本社

森永酪農販売株式会社
〒108-0023
東京都港区芝浦3-13-8
☎03(3798)0162



ホームページ

森永酪農販売 **検索**

<http://www.mo-rakunouhanbai.com/>



お客様とともに農業をめざす
森永酪農販売株式会社